
大切な親友。貴方と共に

セウル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切な親友。貴方と共に

【Nコード】

N4549R

【作者名】

セウル

【あらすじ】

タイトルで判断しないこと。

タイトルに従った作品ではありません。

間違っても、このようなことはしてはいけません。

以上のことを踏まえ、守れる方のみお読みください。

とある少女達のお話。

平和だった日常はとても簡単に崩れ去ってしまう……

（前書き）

タイトルで判断しないこと。

タイトルに従った作品ではありません。

間違っても、このようなことはしてはいけません。

以上のことを踏まえ、守れる方のみお読みください。

「由紀ちゃん」

「今行く」

仲良しの瞳ちゃん。

実は、私達は血は繋がっていない。

住んでる家も違う。でも瓜二つ……

不思議な感じだった。

小学校のとき、こっちに引っ越してきた私。

そして、瞳ちゃんと出会った。

最初は、みんなも、私も驚いたけど、次第になれて……
時折……

「瞳ちゃん、どうだった？」

「由紀ちゃん家って面白いね」

入れ替わったりしていた。

慣れてくると、隣同士の私達は、夜中に抜け出して入れ替わったり。
帰る家を変えて夜中に戻ったり……
楽しかった。

けれど……ある日……

「由紀ちゃん、帰るよ」

私彼女を呼ぶと、由紀ちゃんはひょこつと出てきたものの、
委員会で、帰れないらしい。

少し、残念に思いながらも、少し考え、悪戯をすることにした。

由紀ちゃんは委員会。私は暇。

なら、そうだ。由紀ちゃんの家に戻って、窓から抜け出して幽霊作

戦。

面白そう。

先に帰ると告げ、

どんな、反応するか．．．．．変な期待を胸に帰路につく。
由紀ちゃんの家ドアを開ける．．．．．

けど、いつもの声が無かった。

寝てるのかな？

うーん。どうしよう．．．．．そうだ、由紀ちゃんを待ち伏せしよう。

こっそりと、家に入って靴を袋に入れて、リビングの扉を開けた瞬間。

それらを落としてしまった．．．．．。

「な．．．．．え？」

言葉がでない、脚が動かない。

怖い怖い怖い．．．．．逃げる逃げる。

白いマットのはずが、赤く血に染まっていた．．．．．
横たわった、由紀ちゃんのお母さん。
微動だにしない．．．．．。

寝ていた．．．．．本当に。

死んでしまっていた。

そして．．．．．

「見たな？」

見知らぬ男．．．．．聴いたことの無い声。

足が．．．．．動いた。

外．．．．．

出ようとしたときだった。

扉の開閉音。

誰．．．．．？

また、知らない人．．．．．
リビングからの、声

「ちゃんと見張ってるよ」

ああ．．．．．仲間．．．．．。

どうしようどうしよう．．．．．

部屋．．．由紀ちゃんの．．．．．

階段を駆け上がって、扉を開ける．．．．．が。
腕をつかまれた．．．．．

「どこ行くのかな？」

「あっ．．．．．あっ．．．．．」

怖い怖い．．．．．助けて．．．．．助けて．．．．．
けれど．．．．．

「お嬢ちゃんはなんか見た？」

にやつと男の人が笑う。

「み．．．．．みてません．．．．．」

見たといえば、殺されるそう思った．．．．．けど。

「嘘はいけないな。」

赤く光る包丁が．．．．．最後に見た．．．．．光景だった。

夕日が消えようかという頃に、私はやつと玄関までたどり着いた。

「委員会、長すぎ……」

そう愚痴りながらも、扉を開けた。

異様な空気。

そう感じた。

いつもの声が無い。

そして不意に……背後からの声……

「えっと……由紀ちゃん？」

「え？あつはい。」

瞳ちゃんのお母さんだった。

いつもと様子が違う。

「何か……」

「瞳は？」

「え？先に帰ったはずで——あつ。」

「どうしたの？」

「多分、私の部屋で待ち伏せしてるんです。静かに来て下さい」

私は軽く手招きして、瞳母を中に入れる。

驚かされるもんですか。

にやつと笑う。

静かなところを見ると、お母さんは買い物。

瞳ちゃんを私だと勘違いしてる……

自分の部屋のドアに手をかける。

そして……

二人の悲鳴が、家だけでなく、外まで響き、隣人が駆けつけ、警察と救急車を呼んだ。

「なんで・・・・・・・・こんな・・・・・・・・」

私には言葉が無かった。

もし、委員会がなければ・・・・・・・・

もし彼女と仲良くなければ。

似てさえいなければ・・・・・・・・

彼女が、私の家に行こうなどとは考えなかったはずだ・・・・・・・・

私のせい・・・・・・・・私の・・・・・・・・

翌日・・・・・・・・1人の女子中学生が死亡した。

親友と母親を殺された、その家の・・・・・・・・

親友の遺体が転がっていたベッドの上で、

彼女と同じように、胸にナイフが突き刺さった状態で。

まるで、彼女と同調するように・・・・・・・・死亡時刻も秒単位で一緒だった。

彼女は何故死んだのか、自殺なのか、他殺なのか・・・・・・・・
それは、解っていない・・・・・・・・

（後書き）

特に言う事はありません。

ですが、このような事件はいつでもどこでも起きてしまいます。
身辺の防犯対策は十分でしょうか。

今一度、お確かめ下さい。

在宅だからと、鍵を開けておくことは危険です。

この小説はフィクションです。

感想等ある方はどうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4549r/>

大切な親友。貴方と共に

2011年10月8日14時28分発行